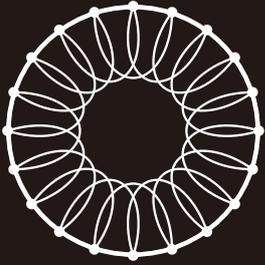


スモールワールド・ネットワーク理論を用いた多様な領域の形成

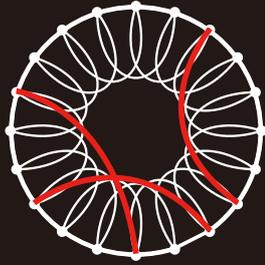
—東京都豊洲地区に於ける試案—

日本において1976年に最初の超高層マンションが建てられてから35年ほどしか経っておらず、日本の超高層マンションの歴史は浅くまだ初期段階であると言える。そうした中で現在の超高層マンションのコミュニティ形成の問題点として、住人間の関係の分断、フロア間の分断、建物と街との分断が挙げられている。人と人とのつながり合いの大切さなどが見直されている今、今後も暫く都心部を中心に超高層マンションが建設されていく中、これらの問題点を解決することが必要だと考えられる。そこで、FacebookやTwitterなどのSNSにアイデアの根幹とされるスモールワールド・ネットワーク理論を元に、現状の超高層におけるコミュニティのあり方に対し、コミュニティの効率化を図るための新しいパスとして、超高層における他者との交流方法、多様な領域、多様なソフトプログラムの3つを挙げ、それらを設計案に適用することで豊かな関係性の賑やかな超高層マンションが出来るのではないかと考えた。

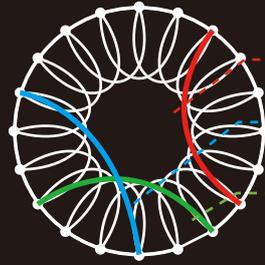
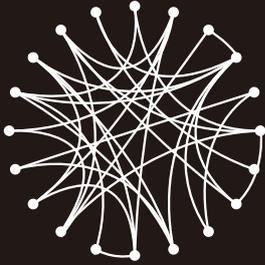
Regular



Small-world

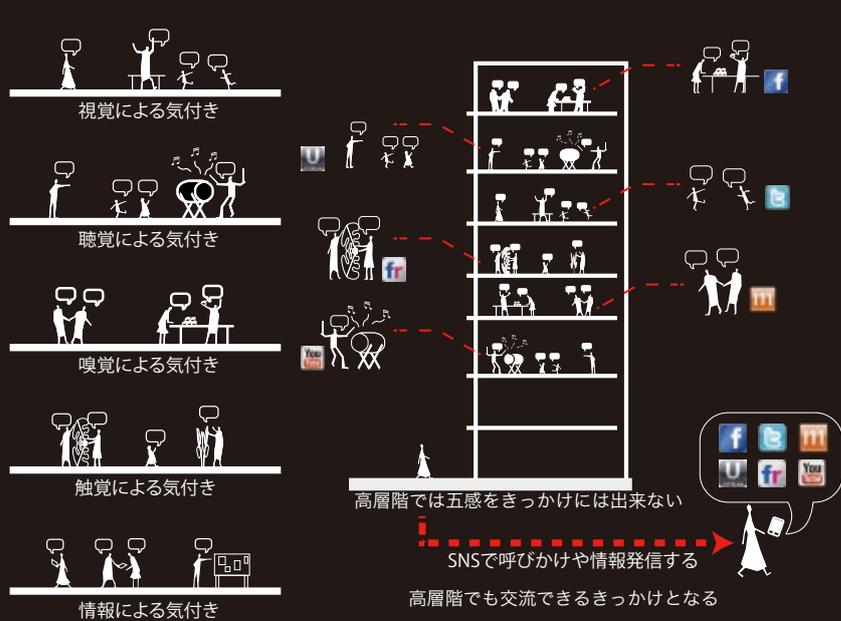


Random



- 高層における他者との交流
- 多様な領域
- 多様なソフトプログラム

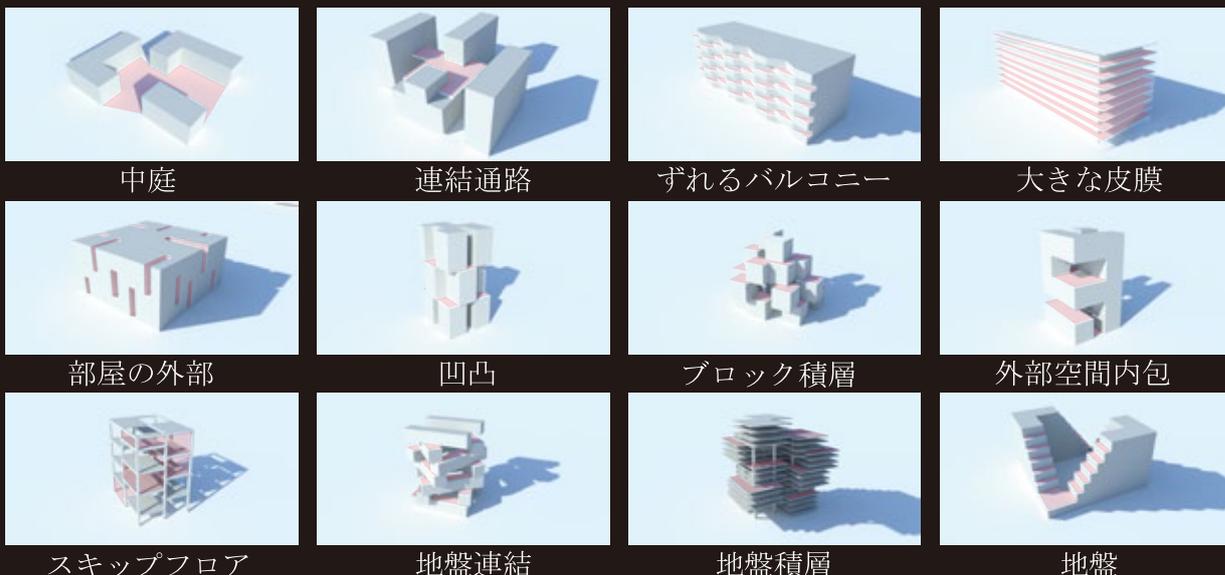
高層における他者が交流するきっかけ



多様なソフトプログラム

- | | | |
|-------------|-----------|------------------|
| meeting | movie | nap |
| work shop | shopping | cycling |
| mini cinema | golf | dress store |
| shower | garden | cafe |
| night club | plants | play |
| smart phone | art works | swimming |
| parlor | market | medical |
| baker | book | spa |
| performance | walk | music |
| trip | running | chat |
| pet | dance | vegetable garden |

多様な領域



多様な領域が多様な行為の受け皿となり高層においても様々な人が交流できるようになったことで賑わいのある多様なコミュニティを形成することができる。これにより現在の関係性が希薄な超高層マンションから豊かな関係性のある超高層マンションに変わっていくことができると思われる。



Study Phase 01
Study Phase 02
Study Phase 03
Study Phase 04

住戸 A



住戸 B



住戸 C



Study Phase 01 共有領域を配置、外壁を操作のスタディ



住戸 D



住戸 E



Study Phase 02 共有領域のボリュームのスタディ



Study Phase 03 空間の具体化のスタディ



住戸 F



住戸 G



Study Phase 04 住戸プランのスタディ



住戸 H



住戸 I



住戸 J



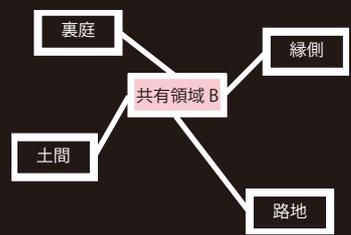
住戸 K



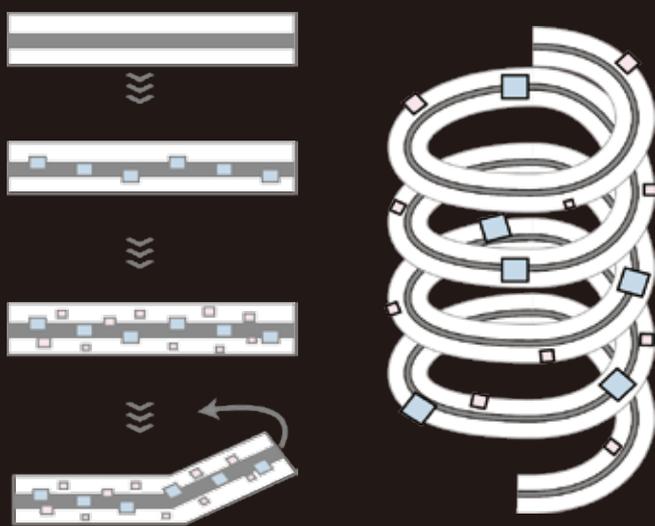
CONCEPT



広場や公園・商店街などの社会的な共有領域



裏庭や路地などの親密な共有領域

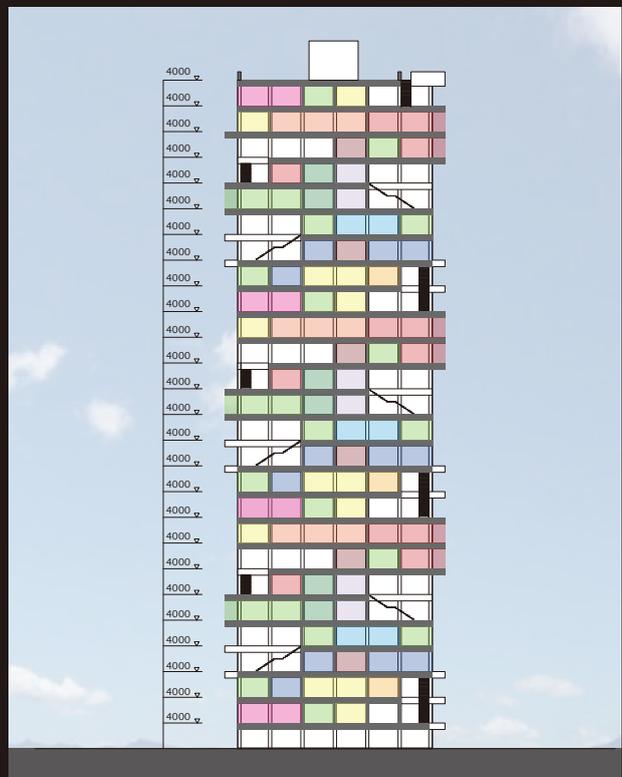


街の構成としてまず始めに道がありそれに連結する共有領域 A と道とは独立した共有領域 B があると、それを巻き上げ、螺旋状に配置することで街を立体的に構成していきます。街の構成としてまず始めに道がありそれに連結する共有領域 A と道とは独立した共有領域 B があると、それを巻き上げ、螺旋状に配置することで街を立体的に構成していきます。

SITE MAP



SECTION



HOUSING PLAN



ELEVATION



IMAGE PHOTO

